

2021年度全国大会結果

第30回 全日本ドッジボール選手権全国大会



開催日：2021年11月27日
開催場所：茨城県水戸市「アダストリア みとアリーナ」
優勝：DOKKY'S (静岡県)
準優勝：パワフルジュニア (奈良県)
第3位：WAKABA-CLUB (東京都)
第3位：土竜島 (神奈川県)

第8回 全日本女子総合選手権



開催日：2021年11月28日 開催場所：茨城県水戸市「アダストリア みとアリーナ」
シニア女子の部
優勝：Mito GS girls (関東ブロック・茨城県)
準優勝：HOLICK (東海ブロック・愛知県)
第3位：OVER DRIVE (関東ブロック・千葉県)
第3位：ぱりきゅあ? (関西ブロック・奈良県)



D-1Gの部
優勝：ぶちのーてんき (愛知県)
準優勝：はかた☆あまっ娘 (福岡県)
第3位：Kyoto Princess (京都府)
第3位：下原ニュースターズG (福岡県)

2022年度大会予定

- 2022年8月21日(日)**
第31回全日本ドッジボール選手権全国大会
茨城県水戸市「アダストリア みとアリーナ」
- 2022年10月2日(日)**
2022 J.D.B.A. 全日本選手権
福岡県北九州市「北九州市立総合体育館」
- 2022年12月11日(日)**
第9回全日本女子総合選手権全国大会
茨城県水戸市「アダストリア みとアリーナ」
- 2023年3月26日(日)**
第32回春の全国小学生ドッジボール選手権全国大会
石川県金沢市「いしかわ総合スポーツセンター」

マルチボール体験会を開催予定!

2022年5月21~22日、岐阜県「岐阜メモリアルセンター・ふれ愛ドーム」でマルチボール体験会を開催予定。

普及事業にスポンサー決定!

ニュータッチ、凄連などのカップラーメンを製造するヤマダイ株式会社が、全国大会に続き、普及事業にも協賛して下さることとなりました。



JDBA Facebook
<https://www.facebook.com/japandodgeball/>



JDBA Instagram
https://www.instagram.com/japan_dodgeball/

JDBAからのお知らせ

2020年に引き続き、21年もコロナ禍による活動制限や自粛に伴う関連行事の延期・中止などの措置があり、皆さまにも苦しい時期が続いたことと存じます。このような状況下においても、消毒や体調チェックなどの安全対策を講じつつ、練習や大会、講習会などを実施・開催していただき、ありがとうございました。昨年の夏には、全国大会の延期と合わせたかのように、スポーツ庁から「子どもたちの発表の機会の重要性和確保のための工夫」を強く求める文書が届きました。極めて慎重な言い回しの中に、改めて全国大会の意義を痛感しました。皆さまのご無事とご活躍を願いつつ、22年度もどうぞよろしくお願いいたします。

●テキスト改訂について

指導者制度：2021年度から進めているカリキュラム変更のため、22年度からB級指導員養成講習会テキストが新しくなります。

●資格更新について

公認審判員.....
更新の手続きに変更はありません。今年度は「2021-2022年度ドッジボール公式ルール&テキストブック」を使用します。更新手続き後にワッペンを発送します。

●公認指導員

更新の手続きに変更はありません。A・B・C級指導員とも、所定の更新料のお振り込みをお願いします。

※詳しくは「会員各位・各種資格更新手続きに関するお知らせ」の表をご確認ください。

●競技者

更新の手続きが必要となります。また、新しく競技者登録する場合は、メンバーサイトログイン後に「競技者申請」を行ってください。申請と併せ、登録料を確認後、承認手続きとなります。

なお、中高生競技者で資格継続の方は更新不要。会員証表面の有効年度を確認してください。

●チーム登録に新制度導入!

シニアチームを、S-1(男女混合)、S-1G(女子)カテゴリーとして「チーム登録制度」を開始します。全日本選手権、全日本女子総合選手権とその予選会(シニアチャンピオンシップ)に出場する際は、チーム登録後、ウェブ上で大会エントリーの手続きをしてください。なお、D-1、D-1Gでは登録制度自体の変更はありません。

●ルールブック翻訳について

国際化に向けた「シングルボールルール(JDBAルール)」の英訳簡易版の作成に取り組んでいます。「マルチボールゲーム(WDAルール)」の和訳版とクイックスタート版の精度向上が課題。

また、2022年12月にエジプトで行われる「マルチボール世界選手権」に参加予定です。英語に限らず翻訳、通訳希望の方も引き続き大募集。ぜひご連絡ください。



ドッジボールニュース

Vol.12

2022.03

限られた時間の中 自身と向き合い 勝ち取った栄冠

葛城市ドッジボールクラブ新庄ソルジャーズ 監督 中村 洋美

第30回春の全国大会では、YouTube画面を通して多くの応援をいただき、ありがとうございました。また、汗でレフガードの色が変わるほど全力でジャッジをしてくださった審判団の皆さまには感謝・感激の気持ちでいっぱいです。

奈良県は、2020年2月に予定していた春の予選会が急激なコロナ感染拡大のため、開催間際で中止となるつらい決断に至りました。

当時の6年生は最後の力を発揮することもできず、悔しさと無念さで涙を流しました。その後、葛城市も市内全域の体育館が閉鎖、グラウンドも使用禁止。ようやく6月から、3時間という制限の中で小さな子どもたちも待ち望んでいた練習を再開。ドッジができるようにと、スタッフが他地域で1時間でも1時間半でも使える体育館を探し出してくれ、移動しての練習が続きました。自分たちの苦しい部分を強化する、練習方法も自ら提案し実行してみるという形で、少ない時間を有意義に使いました。やらされている練習より、実戦にどうつながるのかを考えて練習に向き合う姿勢を重視しました。

ジュニア時代は、全国制覇を夢見ながら他府県へ何度も勉強にいっていただき、そこでの経験が自信につながりました。その強い思いについていった5年生たちとの強い信頼感により、全国大会では伸び伸びとプレーできました。

新庄ソルジャーズ結成16年目。当初は競技ドッジのルールさえ知らないままチームを立ち上げ、遠かった1勝の重み……。それでも毎年多数の子どもたちが入団し卒団します。スポーツが苦手、だけどドッジが大好き。そんな子どもたちがいつか輝けると信じ、今後もおごらず初心を忘れず、平常心で葛城市や子どもたち、スタッフ一同と共に邁進していきたいと思えます。



一つ一つのプレーに思いを込めて 悲願の全国制覇

DOKKY'S 監督 伊島 丈春

DOKKY'Sは、今年でチーム結成21年。これまでに夏8回、春5回、全国大会に出場しましたが、全国大会で一勝すること、トーナメントで勝ち進むことは決して簡単なことではありませんでした。また、昨年に続きコロナ禍で練習場所がなくなり、「いつ練習できるのか。大会は行われるのか」と選手たちは目標を失いかけていました。

そのような中、4月初頭から「日本一になる」というキーワードを練習開始のあいさつで複唱し、チーム全体で目標を明確にしました。また練習では、「ドッジボールはボール一つで楽しめる遊び」という原点に戻り、①楽しく活動する、②子どもの成長、将来スポーツに役立つ体力づくりをするを再確認し、今できることを工夫しながら活動してきました。私自身が25年間ボランティアで行っている体操指導の経験と環境を生かし、ランポリン運動にも挑戦し、楽しく体幹や感覚機能を高める練習に取り組みました。

選手たちは基礎体力をつけ、「日本一」になるために自分たちが今できることをよく考え、努力するチームへと進化。全国大会の舞台では、選手たちの強い思いが一つ一つのプレーに発揮され、それが全国制覇につながったと感じます。

DOKKY'Sは結成21年目で目標であった全国制覇を経験できましたが、指導にあたる中、近年、子どもたちの体力・精神の両面で努力・我慢する力が低下していると感じています。変化し続ける社会の中で、新しい時代に合った育成をしていかなければならないと感じると同時に、これまでと変わらず心身共に強くなれるチームづくりを続けていきたいと思えます。今回、全国制覇を経験した選手たちには、この経験を自信にして今後も思いやりのある心の強い人に成長してほしいと期待しています。



シニア用公認球がリニューアル!

ボールメーカー・株式会社ミカサと株式会社モルテンとの協議の上、2022年度からシニアカテゴリー(S-1/S-1G)用公認球を変更します。完全切り替えではなく、予選や独自の大会で新旧どちらのボールを使用するかは、当面、主催者の判断とします。



左/株式会社ミカサ製 (DB350B-YLB)
右/株式会社モルテン製 (D3C5000-YC)

全国大会のコート別試合映像を、JDBA独自のYouTubeで配信開始!

今年度からJDBA独自で全国大会のYouTube配信を開始します。その目的は、コロナ禍で来場できないチーム関係者への情報提供と近年のオンライン環境への対応。この独自配信は、コロナ収束後もメリットがあると考えます。例えば、

- 会場内の視聴設備も利用し連動することで、来場者の満足度が上がる
- つながりを築こうとしている地域や企業・団体に向けた紹介となる
- (シングル)ドッジボールの素晴らしさをライブで海外へ伝えられる

これまで報道機関や専門企業のバックアップがなければ困難だったことが実現可能に。また、他のSNSとの一体化を進めることで、競技ドッジボールを知らない人々へのアプローチも期待できます。

初めて配信にトライしたのが、全国大会の連続開催場所「アダストリア みと アリーナ」での試合。館内の映像設備は大型・移動式モニターなど、他の体育館よりも充実しています。当日は地元スタッフの柔軟な対応にも支えられ、多くの有意義な経験を積みました。方向性が間違っていないと確信するとともに、次回はさらに完成度を高めたいと思います。

2021年度夏の全国大会、女子総合選手権2カテゴリーの決勝戦映像を右記のQRコードから視聴可能。最高峰の試合をぜひご覧ください。



第30回夏小



第8回女子総合 D-1G



第8回女子総合 S-1G

委員会からのお知らせ

普及委員会 これからの普及活動

JDBA普及委員会 普及委員長 岩見 喜市

2021年度にSELECT10が発表され、普及委員会では普及事業計画の大綱を策定しました。また、オンライン会議などを延べ7回開催し、ブロック連絡会や加盟団体のコロナ禍の中での普及活動の情報共有や実態・課題把握に努めました。

22年度は、課題を解消していくために「おやおどっすくうる」[smileドッジ教室]を行うとともに、幼児や小学生にボール運動の楽しさを味わわせる「Let's enjoyドッジ」などの教室や体験会の充実にも努めます。ドッジ教室や体験会では、企業や行政とコラボしながら競技者や愛好者の増加を目指します。そのために新たな制度「ドッジアドバイザー(DA)」事業を立ち上げます。シニア選手登録者を中心に、普及活動に意欲的な方を選出し、ブロック連絡会や加盟団体と共通理解を図りながら普及活動を行います。

また、学校部活動の体制変化と動き方改革の観点などから、U15カテゴリーの普及を図り、中学生の活動の場を設けていきます。ブロック連絡会や加盟団体と連携を密にして、中学生の活動支援にも取り組んでいきたいと思います。

今後もドッジボールの普及に向けて、「コロナ禍の中で何ができるのか」を模索しながら、未来に向かって進んでいきたいと考えています。

競技委員会 公認審判員のレベルアップに向けて

JDBA競技委員会 競技委員長 中野 誠司

JDBAの戦略が「NEXT10」から「SELECT10」に移行し、1年がたとうとしています。「NEXT10」の10年間は次の3点に取り組みました。

- ①「実技統一事項」「統一基本動作」を実践する上で、JDBA競技委員会の「基本指針」「共通認識」として2つの主題を掲げる。
- ②「基本指針」「共通認識」の意思疎通(共有)を図るため、普遍的概念として3つの項目を示す。
- ③「普遍的概念」を推し進める上での重点(周知)事項として3つの事項を、全国大会(夏小/春小)やブロック研修会などを通じ多くの公認審判員に伝える。

これらの旨意(方針)は「SELECT10」においても継続して発信。今年度を実施されたブロック研修会の中で、既に研修科目の一つとして啓発を図ったブロックもあり、さらなる認識の向上に取り組みます。また前述の趣旨は、今後も引き続きJDBA競技委員会の基本的な理念として推し進めます。

競技委員会の2021年度の事業については、20年度は3ブロックのみの開催であったB級認定会が、今年度は現時点(21年12月末)で既に6ブロックで実施済みであり、22年1月中旬にはさらに1ブロックで開催予定。また、隔年開催のA級認定会も予定通りのスケジュールで進捗しています。

国際委員会 新種目マルチボール、地固めの年に

JDBA国際委員会 委員長 長谷川 満也

感染症収束の見通しが立たないまま2年が経過し、W杯開催も延期を継続中です。コロナ禍において、代表選手経験者は官主催の地域ドッジボール教室の講師などを務め、国内普及事業に参画・貢献。新年度は、普及委員会との協業により、代表経験者を登用した新たな普及制度・仕組みによるドッジボール普及活動を展開していきます。また、国際大会再開に向けて代表選手選考のガイドラインの整理を行い、選考会開催に備えます。

新種目マルチボールの国内普及に関しては、JDBA版「ルールガイド」「クイックスタートガイド」および審判資格取得講習会開催のための「講師用マニュアル」「筆記・実技試験資料」などの作成を完了。専用ボール輸入にも成功し、新年度に向けて講習・体験会を企画し、全国各地での開催を目指します。

シングルボールゲームの海外普及については、加盟先のADFアジアドッジボール連盟にD1全国大会の映像を編集・加工し、ダイジェスト版として提供予定。加盟国への同種目の紹介、シングルボールゲームへの理解促進によって、国際大会での種目採用に向けアプローチを開始します。

指導委員会 B級指導員の配置をスタート

JDBA指導委員会 指導委員長 西村 陽一

JDBAは、日本スポーツ協会への加盟後、公認スポーツ指導者に必要な資質能力(思考・判断・態度・行動・知識・技能)を修得していただくため、「全てのスポーツ指導者に共通して求められる資質能力に関する科目(共通科目)」と「役割に応じて求められる専門的な資質能力に関する科目(専門科目)」を体系的に編成し、養成講習会を実施してきました。今後も指導者講習会を通して、スポーツの価値やスポーツの未来への責任を自覚し、「プレーヤーズセンタード」の下に暴力やハラスメントなど、あらゆる反倫理的行為を排除し、常に自らも学び続けながらプレーヤーの成長を支援する指導者を養成し、豊かなスポーツ文化の創造やスポーツの社会的価値を高めることに貢献していきます。

2022年度からは、いよいよB級指導員を各チームに配置し、安全安心で質の高い指導を目指し、指導者にも学習し続ける環境をつくっていきます。指導者の学習を続ける努力が、ドッジボールの価値を高めていくことと信じています。自己流の限界を感じたり指導法に迷う時は、指導者同士のつながりや学習の機会があることを喜びとし、率先して参加する指導者であってほしいと願っています。

広がれ ドッジの輪。もっとドッジを楽しもう!

OBやシニアの応援を受け、盛り上がった「ドッジやろうぜ2021」

高知県ドッジボール協会 事務局 中島 久美子

2年余り続くコロナ禍での制限された生活。それでも、学校の運動場にはボールで遊ぶ子どもたちの姿が。

体力低下が懸念される子どもたちに、非接触で手軽にでき、学校でも多くの子どもに慕われるドッジボールで体を動かす楽しさを味わわせたいと、高知県スポーツ協会より依頼を受け、2021年12月12日、スポーツ少年団交流大会「ドッジやろうぜ」を開催しました。

この日、参加したのは1~4年生の子どもたちとその保護者。ウォーミングアップで始まり、まず列になって先頭から順にボールを送るゲームや、タオルでボールを運ぶリレーなどを行いました。スタッフとして参加したのは、ドッジボール協会にボランティアで手伝いに来てくれた、ドッジボール部のOBたち。グループの世話役として大奮闘し、「絶対勝つぞ〜」「盛り上げていくぞ〜」と現役時代さながらに、みんなの気持ちをまとめてくれました。

体がぼかぼかしたところで、今度はボールの投げ方を教わります。ここでも、全国につながっているシニアの仲間が愛知県や香川県などから応援に来校。

五霞町子ども会育成会主催 「親子de楽しもう♡ドッジボール教室」を開催

五霞町教育委員会生涯学習グループ 社会教育主事 高橋 直之

茨城県西南部に位置する小さな町「五霞町」で、親子約80名の参加を得て「親子de楽しもう♡ドッジボール教室」を開催しました。日本ドッジボール協会の岩見喜市普及委員長に、「コロナ禍で体験する機会が減少する中、子どもたちにドッジボールを通して体を動かす楽しさを体験させたい」とお願いしたところ、ご快諾いただきました。

教室は、講師の元気なかけ声に合わせたウォーミングアップから始まり、講師の皆さんの実演へ。パス、アタック、キャッチの迫力に、会場はどよめきと拍手に包まれます。実演を見て、がぜんやる気が高まった子どもたちはボールの

誰でも気軽に楽しめる ドッジボールを選んで正解!

T&S健康スポーツ研究所 西山 絹人

T&S健康スポーツ研究所は1992年、滋賀県草津市を拠点に、当時としては他に類を見ない総合型スポーツクラブとして産声を上げました。

創設当時は地域の運動施設を借用し、サッカーと体操の2種目のスクールを展開。その後、3~12才の児童を中心に、野球・フットサル・バスケットボールなどスポーツの選択肢を広げ、2008年には念願の総合型専用人工芝コートを楽しめる総合型スポーツクラブとして成長し、今年、創立30周年を迎えます。

誰でも気軽に楽しめる環境づくりをモットーとする弊社にとって、「気軽に楽しめる」という観点からドッジボールの右に出る種目はないと考えました。弊社スクールの理念にベストマッチする種目としてドッジボールを追加し、さらに環境を広げることに至りました。また、子育て世代の保護者が幼少期に楽しんだドッジボールを取り入れることは、子ども・保護者・指導者の三位一体を理念に掲げる弊社スクールにとって、その理念をより強固にする引き金になるとも考えています。

ドッジボールの醍醐味を披露した後、初心者子どもたちに優しく丁寧に、その魅力を教えてくれました。

こうして基礎の動きを学んだ後、1・2年生、3・4年生に分かれていざ実戦。「やったー!」「もう一回やろう!」。サッカーや柔道をやっている子も、すぐに楽しめるのがドッジボール。体育館は子どもたちの笑顔であふれました。

このイベントで感じたのは、協会役員に加え運営に携わってくれたシニア選手の力が大きかったことです。このようなイベントが、地域のドッジボールチームを卒業し、中学以降も競技だけでなく、広い年齢層を対象とした場で多くの人と交流することで、子どもたちの健全な育成や広く社会に貢献する人材を育てる一助になればと思います。

この大会は、感染拡大防止の観点から参加人数を制限せざるを得なかったため、申し込みから外れてしまった子たちもいました。それだけ反響が大きく、開催に踏み切って得るものも大きかったと思えます。既に来年度もスポーツ協会より再開の依頼を受けています。

捕り方や投げ方、よけ方の指導を受け、できなかったことが少しずつできるようになると、どの顔も笑顔に。

そして、最後はゲーム。子ども同士の対戦に加え、大人のゲームもあり、勝敗に一喜一憂。参加した子どもからは「優しく教えてもらえ、うれしかった」「投げるのがうまくなった」、保護者からは「子どもが楽しそうに取り組んでいる姿を見て、親もうれしくなった。またこのような機会をつくってほしい」といった感想が寄せられました。

たくさん笑顔に出会えたドッジボール教室。今回の経験が豊かな親子関係につながることを切に願うとともに、遠方から駆けつけ、ご指導いただいた日本ドッジボール協会の皆さんには感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

講師はT&S専属スタッフに加え、19年マルチボール日本代表選手・吉川辰哉氏を迎え、過去に開催したドッジボールイベントや双方の指導現場での経験を生かし、楽しさと学びをどのように落とし込んでいくかを擦り合わせながら体験会を実施。方向性やアプローチを調整して、開講につなげました。

会場は専用人工芝コート。青天の下で楽しむことは、五感をフルに使って取り組む意識を育むと捉えています。

技術の向上のみならず、一人一人が自己肯定感を抱きながらドッジボールスクールで得た経験を日常生活につなぎ、園や学校とは違う居場所として友達の輪を広げ、協調性も高められるよう、個性を尊重した指導を実践しています。

滋賀県初のドッジボールスクールとしてその魅力を伝えながら、「楽しい!」を土台に子どもたちの可能性を最大限に引き出し、一人一人が自信や向上心をつかみ取れるよう熱血サポートをしたい。この時代だからこそ、子どもたちに笑顔と元気を与え続けたいと思えます。

